

特別活動（ホームルーム） 指導案

平成30年10月24日（水）4校時（15:00～16:30）

卒業ゼミ 75 在籍名対象 指導者 蛭間 洋子

1 題材名 「小さな発見 ―自己有用感を養うきっかけづくり―」

2 題材観

本単元は、「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」の「第3章 各活動・学校行事の目標と内容 第1節 ホームルーム活動 2 ホームルーム活動の内容 (2) 適応と成長及び健康安全 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重」に当たるものである。

高校卒業後に進学又は就職によって新しい環境に身を置くことには大きな不安を感じる生徒が多い。そこで、本授業では「自己肯定感」を社会性と結び付け、他者の存在があつてこそ生じる「自己有用感」を高めるためのきっかけとなる活動を行いたい。「誰かの役に立つことができる自分」に気付かせ、「人の役に立つことがうれしい」という感覚を喚起することが、本授業の目的である。

3 長期社会体験研修との関わり

研修先企業である群馬ヤクルト販売株式会社（以下、「群馬ヤクルト」と表記）では、「大切にしている価値観」の一つに「利他の心」がある。「まずは他人の利益や幸福を考える」ということであるが、これは商業的な意味においてお客様を大切にすることではなく、全ての人間関係において他者を大切にするという趣旨である。こういった考え方は、社内外での良好な関係の構築にもつながっている。他者とのコミュニケーションにおいて、「利他の心」は潤滑油のように関係を滑らかにしてくれるものである。また、群馬ヤクルトの「信条」の一つには「仕事を通じ人生の夢と目標を達成しよう。互いに協力し、全員が幸せになろう」というものがある。これは、「誰かの役に立つことができる自分」や、「人の役に立つことがうれしい（幸せだ）」という感覚を実感することと同義であると考えられる。このように、群馬ヤクルトという会社で大切にされている価値観を、今回の授業実践につなげたいと考えた。

4 指導方針

- (1) 「会社」とはどういうところか、「働く」とはどういうことか、群馬ヤクルトの会社紹介を通じて、生徒がイメージできるようにする。
- (2) 群馬ヤクルトの事業方針や大切にされている価値観等を示し、具体的にどのように実践されているか紹介する。
- (3) 生徒が個別に作業する時間とペアワークを行う時間を設け、「誰かの役に立つことができる自分」や、「人の役に立つことがうれしい（幸せだ）」という視点をもたせる。
- (4) 生徒同士がコミュニケーションを取りやすい仕掛けを作り、必然的に会話が生まれるように工夫する（「聞き方」指導として、受容的、よいところを見付けて認めるなど、受け答えの定型＋ α を用意する等）。
- (5) まとめとして、この時間に行ったことの意義を考え、生徒自身が活動を振り返れるように工夫する。授業者からもフィードバックを行う。

5 評価規準（事前の活動→本時の活動→事後の活動）

評価規準	関心・意欲・態度		
	思考・判断・実践	自分自身の経験を振り返り、自身を肯定的に捉えることができる。	
	知識・理解	「人の役に立つ」ことを勤労観と結び付けて理解することができる。	
時間	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	知識・理解	思考・判断・実践	
事前の活動		・自分自身の経験を振り返る。	事前アンケートへの回答
本時の活動	・「人の役に立つ」ことを勤労観と結び付けて理解することができる。	・「誰かの役に立つことができる自分」について考え、自身を肯定的に捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「会社紹介」の視聴 ・事前アンケートの振り返り（個人ワーク） ・ペアワーク ・活動内容の全体共有 ・フィードバック
事後の活動			

6 本時の学習指導

(1) 目標 自分の行動を客観的・肯定的に捉える。

(2) 準備 【教員】 コンピュータ、マイク、プロジェクタ、スクリーン、事前アンケート資料、ワークシート、会社紹介資料等
生徒の座席（①指定席&②指定くじ）、年次所属の教員への協力依頼
【生徒】 筆記用具

(3) 展開 ※出欠確認・片付け等の時間を考慮し、内容は80分の計画とする。

学習活動 予想される生徒の反応	時間 (80分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価) (太字はキャリア教育との関わり)
<p><導入></p> <p>1 群馬ヤクルト販売（株）の概要についてスライド資料を視聴する。アイスブレイクを兼ねて、紹介内容に絡めたクイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤクルトで乾杯 ・会社の業種や各部門の業務内容 ・研修員としての体験 ・群馬ヤクルトの特徴、健康知識 等 <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社ではいろいろなことをするのだな。 ・指示に従ってメモをとる。 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の座席は指定席とする。（通常の集会時のゼミ・番号順の座席） ・ワークシートを配付する。（メモ・クイズの回答に使用） ・本時の活動内容及び目標、目的の両方を提示する。 ・次第に従ってヤクルトを配布する。 ・群馬ヤクルトの特徴として、本指導案「3 長期社会体験研修との関わり」で述べた事柄も紹介し、本時の活動への導入とする。 <p>◎問い掛け・声掛けを適宜行う。</p>

<p><展開></p> <p>2 事前アンケートの返却と振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートで書いた内容を各自思い出し、他の生徒と共有する準備をする。(話し方、伝え方練習) ① 事前アンケートの振り返りを行う。 ② ペアワークのやり方の説明を受ける。 <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 周りのみんなはどんなことを書いたのかな。 <p>3 ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面表示の「ペアワークの手順(ヒント)」に従ってお互いの項目を発表し合い、共有する。 ペアワークは各セット、最初に自己紹介を行う。 2セット目はくじの番号に従って移動する。 <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 話をしたことのない人とペアを組むのは不安だな。 どのように動けばよいのだろうか。 <p>4 全体の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアになった相手だけでなく、全体像を共有する。 <p>— 予想される生徒の反応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 私と同じような経験をした人がいる。 自分とは違う経験や価値観をもっている人がいるのだな。 	<p>50分</p> <p>(15分)</p> <p>(25分)</p> <p>(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前アンケートに未記入箇所があれば、その場で記入させる(周囲と相談させる)。 この後のペアワークに向けて、「どのように話すか」「どのように聞くか」の注意点を説明する(「定型」と「+α」を示す)。 自分本位でなく、相手を意識した発表ができるように促す。 <p>◎友人や近くの生徒に支援を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ペアワークの手順(ヒント)」の活用を促し、「どのように話すか」「どのように聞くか」を意識させる。 コミュニケーションが苦手な生徒でも、「ヒント」の「定型」を使うことで活動を進めることができるようにする。 項目ごとに時間を計り、反応を見ながらペアを変えて2セット実施する(1セット:10分前後)。 ペア交換の移動がスムーズにできるよう、パワーポイントで指示を明確に示す。 <p style="text-align: right;">(自己理解・自己管理能力)</p> <p>◎年次所属の教員に最低限の手助けを依頼する(ペアワークの見守り、移動の手助け等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート内容を集計したものをスライドで表示する(個別配付は行わない)。 目標及び目的を再確認させ、学習活動の振り返りを促す。
<p><まとめ></p> <p>5 本時の感想をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由記述/項目ごとの所感(以下) (相手に対する受容的な気持ちをもつことができたか、自分が受容されたり感謝されたりしていると感じることができたか等) <p>6 本時の総括(授業者から述べる)</p>	<p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感想記入及び事後アンケートを実施させる(授業実践の目的達成度の調査も兼ねる)。 ◇事前アンケートで記したような自分の行動がどのように評価されていたかを客観的・肯定的に捉えることができる(「誰かの役に立つことができる自分」)。 ◇「人の役に立つ」ことを勤労観と結び付けて理解することができる。 <p style="text-align: right;">(キャリアプランニング能力)</p>